



# 結核しずおか

23号2008年9月19日

発行

財団法人 結核予防会静岡県支部  
〒420-0915  
静岡市葵区南瀬名町6-20  
TEL 054-261-2512  
FAX 054-261-9474  
Eメール tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

発行責任者 増田利男  
印刷 明和印刷株式会社



## 巻頭言

### 「公益法人制度改革」

平成20年度は私たちのような健診機関にとって、非常に大きな改革のある節目の年になりました。

ひとつはメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予防のためにこの4月から始まりました「特定検診・保健指導」で、いわゆるメタボ健診とも言われるものです。厚生労働省から示された「医療費適正化に関する施策についての基本的な方針について」によりますと、5年後の24年度時点の目標値として、①特定健康診査の実施率を70% ②特定保健指導の実施率を45% ③メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少率を平成20年度対比で10%減少と設定されました。このことは健康診断の質的な内容の変更を迫るもので、結核予防会としても呼吸器疾患対策中心の健診と併せ、今日的国民病である生活習慣病対策にも本部支部あげて取り組むこととして位置づけられたところでもあります。

もうひとつの改革は、今年12月1日から始まる、5年間の猶予期間内に実施を求められている「公益法人制度改革」であります。これは明治以来続いてきた社団法人や財団法人の制度を、登記だけで設立することが出来る一般社団・財団と、民間有識者による委員会の意見に基づき国や県の行政庁が認定する公益性を有する公益社団・財団法人とへ移行できるという制度に抜本的に改められたものです。

私たち結核予防会のような既存の公益法人は全国に約25,000あると言われ、5年間の猶予期間内にこのどちらかを選択しなければならないのです。日本相撲協会や日本オリンピック委員会も公益法人で、この選択を迫られています。そして財団法人結核予防会静岡県支部は公益財団を目指す予定であります。



平成20年9月

財団法人結核予防会静岡県支部事務局長

増田利男









# 複十字シール運動に ご協力をお願いします

運動期間 8月1日～12月31日

## 募金目標額 1650万円



結核などの胸の病気を撲滅するため、複十字シールを通じて事業資金を集めるために積極的に募金活動を行っています。

皆様の温かい善意の募金は、結核予防思想の啓発活動、検診車購入積立資金、さらには発展途上国の結核対策援助等の緒事業に充当しています。

今年も複十字シール募金へのご協力をお願いいたします。

### 複十字シールの歴史



1952年



1962年



1978年



1985年



1992年



### お問い合わせ 財団法人結核予防会静岡県支部

住所：〒420-0915 静岡市葵区南瀬名町6-20

電話：054-261-2512(代)

E-mail tb-shizu@topaz.ocn.ne.jp

URL <http://www.jatahq.org> (財団法人結核予防会)

### 結核予防週間によせて

平成20年9月24日(水)～30日(火)

わが国の結核の現状は、平成18年中に新たに結核患者として登録された人は26,384人で、2,267人が亡くなっており、世界の中では依然として結核の中まん延国として位置付けられていることから、引き続き十分な注意が必要です。

今年の結核予防週間は、『結核のない世界へ』をスローガンに実施します。この一週間を、「結核の撲滅」に向けて、国民一人一人に理解と協力が得られるように知識を深め、結核対策の推進に一丸となって取り組むことが必要であります。

●当支部では、静岡県、静岡市、静岡県結核予防婦人会と協力して実施します。

1 実施日：平成20年9月20日(土) 13:00～

2 場所：アピタ静岡(静岡市駿河区石田)

●県・各市町の健康まつりなどで、当支部職員の参加(普及啓発活動・追加住民検診)、各種パネルやシールぼうやの着ぐるみを貸し出しています。

➡お問い合わせは、総務部 鈴木まで



## 市町村保健センターの紹介

### 富士宮市保健センター

富士宮市は、静岡県の中北部に位置し、富士山の西麓にひらけた街で、富士山の恵みである豊かな水をはじめとした豊富な食資源があることから、食文化を大切に、「食による健康で明るいまちづくり」に取り組んでいます。市の総人口は、平成20年4月1日現在125,833人、高齢化率は20.2%で、確実に高齢化が進展しています。

20年度の重点施策として、「少子化対策の総合司令塔となる推進本部」に先んじた「子ども統括監の創設や福祉相談を総合的に担当する課の設置など子育て支援をはじめとした福祉施策の強化を図っています。

母子保健事業においては生後4ヵ月までの乳児に、子育て支援に関する情報提供や育児不安に対する相談、指導等を行う全戸訪問「こんにちは赤ちゃん事業」を実施しています。従来は第1子の訪問を優先し行ってきましたが、今年度より100%訪問達成を目指しています。

次に成人保健対策においては、4月にスタートした特定健診、保健指導の準備に追われていますが、広く健康づくりの啓発にも努めていきたいと考えています。

そこで骨密度計や特定保健指導用にと準備した、「体成分分析器」を健康相談にも活用して事業を行っています。

商店街と協力した出張健康相談を実施しています。さらに今年からは「食育の日」に合わせて、若い世代も多く集まる大型スーパーでの健康相談を行うことになりました。この健康相談を通じて、健康づくりへの関心を高めていただき、あわせて「特定健診、保健指導」「がん検診」の受診率の向上にもつなげていければと思っています。

富士宮市保健センター  
健康増進課 課長 中川 礼以子





# 結核予防事業とともに



● 牧之原市相良結核予防会 副支部長 菅沼とし江 ●

昭和48年より、旧相良町で保健事業に従事、当時結核患者が50人から60人いた時代、住民宅を訪問して健康状態を把握し、患者家族の集団家族検診（胸部レントゲン検査や血沈検査）を行ったり、乳幼児はもちろん小・中学校も毎年全学年のツベルクリン反応検査及びBCG接種を行ったものでした。

今も鮮明に思い出される事例のひとつに、乳児の一人に強陽性反応が出たが、同居家族には結核患者はおらず、調査の結果、毎日祖母の子守りで隣の家に遊びに行っており、その家から二人の結核患者が発見されたことがありました。感染源は可愛がってくれていたお隣りのおばあちゃんだったという嬉しくない事例でした。

結核検診の重要性、ツベルクリン検査及びBCG接種の重要性を強く感じ、受診率や接種率を何とか上げなくては、また、BCG接種の手技にもこだわり毎回担当の医師に注文をつけたものでした。現代のようにエアコンのある時代ではなく、あせもや湿疹がひどいため、BCG接種部位がなく苦労したものでした。一般住民検診率をあげる事と、当時成人病予防とあわせて、一ヶ月間各地域の公民館で血圧測定を実施したものでした。自動血圧計のない時代だけに、結核検診会場で血圧をはかってもらえるよとなかなか人気になったものでした。結核に関する事業日数も多い時代でした。

平成になり時代もいろいろ変化し、地域組織の婦人会が解散するのにもない、結核予防婦人会組織部分も解散することになりました。この相良地区から結核患者がなくなった訳ではない、このまま地域の団体組織をなくしてしまう訳にはいかないとの思いで、これからも地域での結核予防活動や複十字シール募金活動の必要性を感じ、これまでの婦人会長経験者らと共に相良結核予防会準備委員会を立ち上げ、平成7年2月に男性にもご支援を頂きたいとの思いも含め「相良結核予防会」を発足しました。会員さんの協力により住民検診未受診者名簿を持って、追加検診の受診票を配布しながら、受診できない理由を聞き取り調査したこともありましたが、個人情報も厳しくなり、活動も見直しをかけながら、他町との交流会を行ったり、天竜病院へ結核研修に行ったりして会員の意識啓発に取り組み、30人の理事を中心に現在400人程の会員で活動しています。

昨年3月、母の介護のため早期退職することになり、長期にわたり地域の皆さんに支えられて来たお返しに、昨年4月から、結核予防会のメンバーに入れて頂きました。

今年3月には、牧之原市相良結核予防会として土屋貞代会長より感謝状を、また、私個人としても石川嘉延支部長より感謝状を頂き、これからも結核予防事業を始めとする保健衛生知識の普及啓発や各種健診の受診奨励に努めていきたいと思っています。







グループ紹介

乳がん検診の啓発活動など幅広い活動を続けている「あけぼの静岡」のご紹介  
あけぼの静岡代表の星野希代絵さんと新川由利子さんに活動状況を報告していただきました。

# あけぼの静岡

乳がんを体験した者同士が、希望を持って歩めるよう、交流を深め、支えあう体験者の会です。あけぼの会本部とネットワークで繋がっていますのでいろいろな情報を得ることも出来ます。乳がん死ゼロを目指し、啓発活動も行っています。2008.5.25現在 64名の会員がいます。

## 主な会の活動

### ● こすもすサロン

毎月一回、静岡市駿河区馬淵の男女共同参画センター“あざれあ”に仲間が集い、思いを語り、情報交換等を行っています。

### ● 親睦会・研修会・講演会

日帰り温泉、食事会、お泊り会等、年に数回企画しています。不定期で、ABCSS・ABCEFボランティア研修会、講演会、相談会を行っています。

### ● ABCSS (病院訪問ボランティア)

静岡県立総合病院にて、研修を受けたボランティアが訪問し、これから手術や治療を受ける患者さんの術後の生活の不安や心配事など、疑問に答え、生活に役立つお土産セットの配布等のサポートサービスを行っています。

### ● ABCEF (あけぼの・乳がん・教育・部隊)

地域の要請を受け、出向いて、自己検診法を交え、体験者として検診の重要性を訴える啓発活動を行っています。

### ● 母の日キャンペーン

毎年5月の母の日に、静岡市の青葉公園前にて、乳がんの自己検診とマンモグラフィ検診を促すパンフレット、自己検診用グラブ、ポケットティッシュ等を配布し、早期発見、早期治療の重要性を訴えています。

あけぼの静岡代表 星野希代絵

## 2008母の日キャンペーン報告

実施日：2008.05.11

配布場所：青葉イベント広場

当日スケジュール：ティッシュ&グラブ配布 12:00～14:00

マンモグラフィ検診

受付 10:50～14:15

撮影 10:55～14:30

触診モデル体験コーナー 10:50～14:30

ティッシュ、自己検診用グラブの配布目的は、一時間かからずに終わる予定だったのですが、触診体験やマンモグラフィに興味を示した方が多く説明や体験指導等にもおわれ、実質2時間強の配布となりました。

マンモグラフィ検診 検診料 2,000円  
検診人数 44名  
(40代以上/22名 30代以上/22名)

30代は市の検診対象ではないのですが、結核予防会さんのご厚意で、体験という形での検診を行うことができました。

また、技師さん1名で30名の事前予約のみの予定でしたが、技師さんが2名来てくださり、当日飛び込みOKとなり、結果44名の検診人数となりました。

今年は、夫婦揃って、またカップルで、耳を傾ける若い方が多いように感じました。実際にグラブを



使った触診体験コーナーでは、男性が体験する姿もみられました。

グラブの使い方を説明しながら、数本の筆の毛に触れての体験では、指先の感覚の良さに驚いている人も多く、デモンストレーションの重要性も感じました。

今回のマンモグラフィ検診車の登場で、「何のキャンペーンですか?」と声をかけてくる方もいらっしゃいました。(マンモグラフィ自体を知らない人も多かったです。)

50代、60代でも乳がん検診は初めてという方も多いいことにも驚きました。30代の方はマンモグラフィ検診の対象外なのですが、40歳まで待つのが不安という声も多く、実際若い方にも増えているので、対象年齢の引き下げやエコーによる検診など、行政側にも訴えていく必要性を感じました。

あけぼの静岡 新川由利子



# 平成20年度静岡県結核予防婦人会理事会及び総会の開催報告



## 『平成20年度静岡県結核予防婦人会理事会 (支部長・事務局担当職員合同会議) 及び総会』

開催しましたのでご報告いたします。

### ● 理事会 ●

日 時	平成20年6月30日(月) 午前10時30分～
会 場	静岡県男女共同参画センター あざれあ 2階 大会議室
議 題	第1号議案 平成19年度事業報告及び収支決算について 第2号議案 平成20年度事業計画及び収支予算について 第3号議案 役員の選任について 第1号・第2号・第3議案について審議し原案のとおり承認されました。
支部長・事務局担当職員合同会議 (1) 最近の結核の発生状況等について(静岡県疾病対策室) (2) 平成20年度複十字シール募金運動について (3) 第12回結核予防関係婦人団体中央講習会出席者の概要報告	

### ● 総 会 ●

日 時	同 日 午後1時～
会 場	同 会 場
議 事	第1号議案 平成19年度収支補正予算について 第2号議案 平成19年度事業報告及び収支決算について 第3号議案 平成20年度事業計画及び収支予算について 第1号・第2号・第3議案について審議し原案のとおり承認されました。
終了後 『すこやかに ～結核予防婦人会30年の歩み～』 社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会作成DVD 上映	

### 役員の選任について

会長、副会長および監事の任期満了のため、静岡県結核予防婦人会  
会則第12条に基づき次の方が選任されました。

会 長	土 屋 貞 代	重 任
副 会 長	大 嶽 生 江	(沼津支部)
副 会 長	鈴 木 節 子	(静岡市支部)
監 事	吉 田 みさ子	(浜松市支部)
監 事	寺 島 みゆき	重 任(藤枝支部)





結核予防会・対がん協会共催

## 診療放射線技師研修会を振り返って

平成19年3月14日（水）から3月16日（金）、例年どおり3日間（財）結核予防会・結核研究所講堂において、日本対がん協会・結核予防会の共同開催で、北海道から沖縄県の検診や医療現場に携わる多くの人の参加で「診療放射線技師研修会」が開催されました。昨年同様、初開催の研修会が受講者にとってはハードで一日中講義を聴くのが大変だということで今年も午前9時10分から午後5時30分前後までの勉強会でしたが、それでも研修に参加された皆様には、長時間の講義であるにも係わらず最後まで充実した内容でありました。



今医療の現場は大きく変換の時期を迎えています。平成19年4月より始まる一部医療法改正に向けて何をすべきかを中心に、今回の研修は信頼される医療人を目指した職員教育全般のカリキュラムであり、技師一人一人技術向上を目指した内容であった。

医療機器や医薬品の分野では、医療の安全、院内感染対策、医薬品の安全確保のための体制、医療機器の安全等確保のための各措置を講ずることが必要であり、医療機器の添付文書の交付を受ける事や医療機器の保守点検を実施し、安全を確保して使用することが重要であり、行政が強制的に行政処分の対象にすることもありうる内容でした。

信頼される医療人を目指して、期待される職員になるためには、6S（整理・整頓・清潔・清掃・躰・作法）を含めた改革改善を行い期待される職員になる努力をしていかなければならない。

医師や放射線技師が診断に適した写真を提供する技術または被曝の面で、低線量胸部CT、マンモグラフィ、胃がん検診など技師が診療に習熟した技術を養い読影に適した写真の提供が出来、なお且つ被曝に対してもQ&Aに説明責任をもてるようにならなければならない。

アスベストや胃部検査の技術と読影は、我々は生活の中で石綿など便利さや経済性を優先部材として使用していた結果、中皮腫が大問題となっていることや、胃がん検診の精度向上を目指し、新胃X線撮影法を使用して読影が出来なお且つ写真に病変が現すことが出来ることを、症例などを交えながらの研修も行われた。

コンベンションフィルムからDRへの変換が急速に普及していることを踏まえ、上部消化管検査でフラットパネルの画像も含めて比較検討が行われた。胃の診断と治療では、胃透視はパターンで撮影されている施設があるが、治療する側は撮影者自身で病巣が分からないとうまく病巣を撮影することが出来ない指摘があった。

最後に、受講者が撮影された胃部間接撮影フィルムを持ち込み5班に分かれてフィルム評価を行い自分自身の評価が分かり今後の撮影課題などが分かったと思います。また、講義によっては、筆記による確認作業もあり全て我々が取り組まなければならない課題であった。

このような研修は今回参加された皆様のみならず今後参加される皆様のためにも有意義で長く続きますようにお願いいたします。

## 編集後記

夏の高校野球で静岡代表の常葉菊川高校が大活躍でした。決勝こそ北大阪代表の大阪桐蔭に敗れ、県勢として82年ぶりの夏制覇はならなかったものの、ひじ痛のエースをかばいフルスイングで相手に立ち向かう姿からはさわやかさすら感じました。

また、バッティングだけでなく特に二遊間をはじめとする堅守もすごかったです。常葉菊川高校のこのような活躍が甲子園で四季連続で続いたので“静岡の高校野球は変わった。”と全国の高校野球ファンに知らしめてくれました。

ほんとうにお疲れ様でした。そして、さわやかな感動をありがとうございました。

（増田 記）

題字：田中隆（元支部職員） 表紙撮影：村木弘知（元県職員）